

第2学年 国語科学習指導案

学級 2年3組 男子13名 女子14名 計27名
場所 2年3組教室
授業者 金野 真由美

- 1 単元名 おもちゃのせつめい名人になろう
教材名 「しかけカードの作り方」「おもちゃの作り方」(光村図書2年下)

2 単元について

(1) 教材について

学習指導要領第1学年及び第2学年の「読むこと」の指導目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。また、「書くこと」の指導目標は、「経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。」である。本単元は、「読むこと」の指導事項「イ時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」、「書くこと」の指導事項「ウ語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと」を受けて設定された単元である。本単元では、「1年生におもちゃとその説明書をプレゼントするために、『しかけカードの作り方』で説明するための工夫を探し、それを使って『おもちゃの作り方』を書く」という言語活動を位置付ける。

1学期の「たんぼぼのちえ」では、時間的順序や事柄の順序を考えながら読み、たんぼぼの知恵についてカードにまとめた。その後、図鑑や本で調べた知恵を新たな知恵として、カードに書き加える活動を行った。さらに、「かんさつ名人になろう」では、一つのことに話題を絞って客観的に記録した事実を書くことや、「まず」「次に」「さいごに」などの順序を表す言葉を使って書くことを学んできた。

本教材「しかけカードの作り方」は、カード作りの手順を説明した文章である。作るのに必要な、<材料>と<道具>、<作り方>、<使い方>が順序に沿って書かれている。特に<作り方>の部分では、作り方の手順を示す「まず」「つぎに」「それから」という言葉が使われているため、書かれていることを正確に理解することができる。実際の作業を伴うため、児童一人一人が楽しみながら何度でもフィードバックしながら読むことができる。「おもちゃの作り方」では、「しかけカードの作り方」で読んだ工夫を使って、1年生にプレゼントする説明的な文章を自分で書くという学習を行う。

(2) 児童について

児童は、「たんぼぼのちえ」の学習で時間的な順序に沿って文章を読む経験をしている。また、「どうぶつ園のじゅうい」では、獣医の仕事とそのわけについて関連付けて読むことができた。事前調査によると、説明文を順序よく読むことについては、7割が「できる」「だいたいできる」と回答している。しかし、説明文を読みながら何かを制作した経験がある児童は2割と少ない。

本教材では、「手順」という順序に沿って読むことを学習する。普段の生活の中で児童は、「掃除の手順」「給食の片付けの手順」など手順を意識して活動する場面は多い。しかし、文章を読んで手順を理解するという経験はあまり多くない。それ以上に手順を考えながら文章を書いたという経験はほとんどない。

(3) 指導について

本単元では学習のゴールとして、1年生におもちゃのプレゼントをするために、「しかけカードの作り方」で説明の工夫を探し、それを使って「おもちゃの作り方」を書くという言語活動を位置付ける。

一次では、自分たちで作ったおもちゃを想起させ、説明書を付けたおもちゃを1年生にプレゼントすることを知らせる。「しかけカードの作り方」を読みながら実際に作ってみる活動を行い、文章の中のどこに着目したのかを話し合わせることで、学習の見通しをもたせる。

二次では、「しかけカードの作り方」の説明の仕方にはどのような工夫があるのかを読み、カードにまとめさせる。はじめに、順序を表す言葉とよさに気付くことができるようにさせる。次に、作業することの後にアドバイスの文が書かれていることに気付くことができるようにさせる。最後に文章の構成に着目し、見出しが合った組み立てに気付かせる。それぞれのよさをカードにまとめさせ、自分で書くときに活用できるようにしていく。

三次では、二次までに学習した説明の工夫を使って、まとめや順序を考えながら、自分の選んだおもちゃの説明書を書いていくことができるようにしたい。

3 単元の目標と評価規準

観点	目標	観点	評価規準
国語への関心・意欲・態度	・おもちゃの作り方を説明する文章を書くために、説明の工夫を見つけて1年生が間違えずに作れる説明書を書こうとする。	国語への関心・意欲・態度	・おもちゃの作り方を説明する文章を1年生にプレゼントするために、順序を表す言葉やアドバイスなどの工夫を見つけて、自分の説明書を工夫しながら書こうとしている。
書くこと	・事柄の順序や表現上の順序に気をつけながら、内容のまとまりやつながりのある文章を書くことができる。(ウ)	書く能力	・おもちゃの作り方の順序や、作業することの次にアドバイスを書くという表現上の順序に気をつけながら、内容のまとまりやつながりのある文章を書いている。
読むこと	・説明されている事柄の順序や、写真と文のつながりなどを考えながら内容の大体を読むことができる。(イ)	読む能力	・順序を表す言葉が使われていることや手順(すること)の次にアドバイスが書いていること、写真と文が対応していることの良さを考えながら「しかけカードの作り方」の大体を読んでいる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。 イ(ウ)	言語についての知識・理解・技能	・「まず」「次に」「それから」「今度は」「最後に」などの順序を表す言葉を理解している。

4 指導計画(10時間)

段階	時	本時の目標	学習課題と主な学習活動	評価規準 観点【 】 方法()
一次	2	① 単元の学習の見通しを ② もち、学習計画を立てることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">おもちゃのせつめい名人になろう。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これからの学しゅうの見通しをもとう。 ～しかけカードを作ってみよう。～</div> ・「せつめい名人」になって、1年生におもちゃとその説明書をプレゼントすることを確かめる。 ・「しかけカードの作り方」を読みながら自分でカードを作る活動を通して、文章のどこに着目したのかを話し合い、学習課題を立て単元の見通しをもつ。 ・説明の工夫①写真と文の対応についてまとめる。	・単元のゴールが「1年生に説明書をプレゼントする」ということを知り、「しかけカードの作り方」から説明の工夫を探するために、文章を読みながら実際にしかけカードを作り、文章の着目点について話し合うことで、学習計画を立てようとしている。 【関・意・態】(観察・発言)
二次	3	③ 順序を表す言葉と作業することが書かれていることを読み、そのよさを考えカードにまとめることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">せつめいのくふう②を見つけよう。</div> ・順序を表す言葉を探し、そのよさを考え、説明の工夫カードにまとめる。 ・しかけカードを作るための手順(すること)を文章から抜き出す。	・「まず」「つぎに」などの順序を表す言葉があると手順が分かりやすいというよさが分かり、説明の工夫カードにまとめている。 【読イ】(ワークシート) ・「まず」「つぎに」などの順序を表す言葉を理解している。 【言イ(ウ)】(ワークシート)
		④ 作るときのアドバイスが書かれていることを読み、そのよさを考え、カードにまとめることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; float: right;">本時</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">せつめいのくふう③を見つけよう。</div> ・作るときに注意することが書かれていることを読み、そのよさを考え、説明の工夫カードにまとめる。 ・しかけカードを作るためのアドバイスの文を文章から抜き出す。	・することの後に注意することや訳などのアドバイスが書いてあると、注意しながら間違わずに作ることができるというよさが分かること、説明の工夫カードにまとめている。 【読イ】(ワークシート)
		⑤ まとまりごとに説明されているよさを考え、カードにまとめることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">せつめいのくふう④を見つけよう。</div> ・説明全体の組み立てが4つに分かれていることに気づき、そのよさを考え、説明の工夫カードにまとめる。	・見出しがついていてまとまっている構成になっていると、自分の読みたいところをすぐに読むことができることが分かり、説明の工夫カードにまとめている。 【読イ】(ワークシート)

三 次	5	⑥ 説明の工夫がどのように書かれているかを確認することができる。	せつめいのくふうの書かれ方をたしかめよう。 ・「けん玉の作り方」を読み、説明の工夫を確認する。	・説明の工夫がどのように実際に書かれているかを確認している。 【書ウ】（観察・発言）
		⑦ 説明の工夫を使いながら〈前書き〉〈ざいりょうとどうぐ〉〈遊び方〉を書くことができる。	せつめい書を書こう。〈前書き〉 〈ざいりょうとどうぐ〉 〈あそび方〉 ・《前書き》《ざいりょうと道具》《遊び方》を説明の工夫①②④を使いながら書く。	・説明のわざを使いながら《前書き》《ざいりょうとどうぐ》《遊び方》を書いている。 【書ウ】（ワークシート）
		⑧ 〈作り方〉の手順を、順序を表す言葉や数字を使って書くことができる。	じゅんじょに気を付けて〈作り方〉を書こう。 ・《作り方》の手順（すること）を、順序を表す言葉や数字を使って書く。文に合わせて必要な絵を描く。	・〈作り方〉の手順を、順序を表す言葉や数字を使って書いている。 【書ウ】（ワークシート） ・「まず」「つぎに」などの順序を表す言葉を理解している。 【言イ(ウ)】（ワークシート）
		⑨ 〈作り方〉の手順の後に、作業上の注意点、なぜそのように作るかの訳などのアドバイスの文を考えて書くことができる。	1年生がまちがえずに作れるようにアドバイスを書こう。 ・《作り方》の手順（すること）の後に、アドバイスの文を考えて書き加える。	・〈作り方〉の手順の後に、作業上の注意点、なぜそのように作るかの訳、などのアドバイスの文を考えて書いている。 【書ウ】（ワークシート）
		⑩ おもちゃのせつめい書を読み返し、表記上の間違いを正して、清書することができる。	おもちゃのせつめい書をかんせいさせよう。 ・おもちゃの説明書を読み返し、表記上の間違いを正して、清書する。	・おもちゃの作り方を読み返し、表記上の間違いを正して、清書している。 【書エ】（ワークシート）

5 本時の指導（4 / 10）

（1）目標

作るときアドバイスが書かれていることを読み、そのよさを考え、カードにまとめることができる。

（2）評価と支援

評価の観点・評価規準	期待する児童の記述例	努力を要する児童への支援
【読む能力 イ】 することの後に注意することや訳などのアドバイスが書いてあると、注意しながら間違わずに作るができるというよさがあることが分かり、説明の工夫カードにまとめている。	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスには、ちゅういすることやなぜそうするかわけなどが書いてある。 ・アドバイスが書いてあると、ちゅういしながらまちがえないで作ることができる。 	キーワードを強調する等、板書を工夫し、板書に着目させて大事なことを確認しながら書くように促す。また、児童の発表を受けて板書したものを参考にして書いてもよいことを伝える。

（3）研究とのかかわり

【学び合いを深める工夫】

- ・アドバイスが書かれていることのよさに気付かせるために、「アドバイスは必要かどうか。」「アドバイスがあると作る人にとってどんないいことがあるのか。」という発問を行う。
- ・教材文から探したいろいろな工夫が、ひと目で見られるようなワークシートを工夫し、書き加えていけるようにする。

【表現する力を高める工夫】

- ・アドバイスにはどんなものがあるかや、アドバイスの文が書いてあることのよさについて、全体で話し合ったことを生かしたり、友だちの考えを参考にしたりしながら、自分の考えをまとめて書かせる。

(4) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	・指導上の留意点 <>評価 ○研究内容との関わり
とらえる 7分	<p>1 課題を把握する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で見つけた工夫を想起し、新たな工夫を探していくことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">せつめいのくふう② を見つけよう。</div> <p>2 見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスが書いている文章と書いていない文章を提示し、違いに気付くことから課題への見通しをもたせる。 ・段落①を例にとり、アドバイスの文のよさを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨日は、順序を表す言葉のいいところを見つけた。 ・ここを読むと長さややり方が分かった。 ・ぼくも長さに気を付けて作ったら、間違えないで作れた。 ・○○さんと同じで、長さのことが書いてあったからものさしで測った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・順序を表す言葉が書いてあると、作業する手順が分かりやすくなるというよさがあったことを想起させる。 ・2つの文章を比べることで、どこに着目して工夫を探していくのかが目で見えるようにすることで課題への見通しをもたせる。 ・段落①の「4センチメートル」「3センチメートル」「ものさしではかる」が書いていると注意しながら作ることができるよさがあることを話し合う。一次で、そのことを発言していた児童に意図的に指名する。
たしかめる 30分	<p>3 自分の考えをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の段落からも同じようなアドバイスの文を見つけて、サイドラインを引く。 <p>4 学び合いをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイドラインを引いたところを確認する。 ・ペアでアドバイスの文を分類し、交流する。 ・全体でアドバイスの文のよさを確認し、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・②こうすると、～おし上げやすくなります。 ・③これが、山になります。 ・④かざりが大きすぎると～しまいます。小さすぎると～しまいます。 ・⑤こうすると、～なりません。 ・①と④が似ている。どちらも注意して作るように書いている。 ・④も注意することだと思う。 ・②と⑤が似ている。どちらも、「こうすると」と書いている。 ・②と④は折ったり貼ったりするわけが書いている。 ・アドバイスがあると注意しながら作るから、間違えないですむ。 ・アドバイスがあると分かりやすくて、作りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読む人へのアドバイスの文を探して、青鉛筆でサイドラインを引かせる。 ・アドバイスの文は注意することだけではないことに気付かせるために、ペアで似ているところを探させる。 ・アドバイスとして書かれていることを分類するために、「このアドバイスの中で、にているものはないか」「どんなところがにているか」という発問を行い、「注意すること」と「作業する訳」に分類、整理する。 ○アドバイスの文が書かれていることのよさに気づかせるために、「アドバイスの文は必要か。アドバイスの文があるとどんないいことがあるのか。」という発問を行う。
まとめる 8分	<p>5 まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アドバイスがあると～」に続けて、注意点や訳を書くよさについてまとめる。<評価Bの文例> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">アドバイスが書いてあると、ちゅういしながらまちがえないで作ることができる。</div> <p>6 ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふり返りカード」に、分かったことや友だちの考えを聞いて思ったことなどを記述する。 ・書いたことを発表する。 ・次時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・することだけではなくて、アドバイスが書いてあると間違いもなくなるし、作る人が作りやすいということが分かりました。 ・わたしも、1年生に説明書を書くときにはすることだけでなく、アドバイスも書いてみようと思いました。 	<p>○アドバイスにはどんなものがあるかや、アドバイスの文が書いてあることのよさについて、全体で話し合ったことを生かしたり、友だちの考えを参考にしたりしながら、自分の考えをまとめて書かせる。</p> <p><評価規準></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>することの後に、注意することや訳などのアドバイスが書いてあると注意しながら間違わずに作ることができるというよさがあることが分かり、説明の工夫カードにまとめている。</p> <p>【読イ】(ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・B評価に達している児童には、アドバイスが書いてあることのよさを具体的に書くようにさせる。

